



会報 むすび

第 22 号
平成10年 3月吉日

※ 発行所 ※
栃木県青年神職むすび会
会報編集委員会

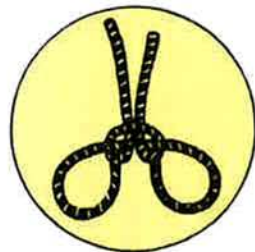
※ 発行人 ※
加藤直人

※ 印刷所 ※
(有)中津印刷所

悠久の自然を次代に

目次

会長挨拶	2
神青協一都七県協議会総会	3
記念講演	4
海外宗教視察研修会	6
植樹祭	8
初穂曳参加記	9
大阪視察研修	10
中央研修会	11
会員神社紹介	12
インターネット事業	14
役員・幹事・各種委員会名簿	16
平成九年度事業報告	17
新人会員紹介	18
ご結婚・第一子誕生	19





ごあいさつ

栃木県青年神職むすび会

会 長 加 藤 直 人

むすび会々報の発行にあたり一言ご挨拶申し上げます。

創立三十五周年記念事業を立派に完遂されました稲寿会長の後任として、むすび会々長に就任してから早一年が過ぎようとしております。

この一年、役員・会員が一丸となり、更には先輩諸兄の応援を得、諸々の事業を推進して参りましたが、現代の世の中は低迷する社会情勢、拠所のない心の不安、深刻化する青少年犯罪の多発等、我々が祖先から受け継いできました「神道」に寄せられる期待は大なるものがあります。また神社界に於いても、戦後五十年が過ぎ去り、新たな五十年に向かつて歩みはじめたこの時、我々青年神職の行動実践に注目をしています。

過去のインフレ経済からデフレ経済へ、全ての経済的価値観が流動化している時、政界においては自己の都合で離合集散を繰り返し、国民の為の政治を怠っている時、汚職事件が続々と摘発され、国民が呆れ返っている時、少年が殺人事件を犯し親等が驚愕している時こそ、青年神職自らが、それぞれのお社でご神徳の宣揚を益々図らなければいけないことは当然であります。

しかしながら、宏大無辺な神様のご神徳を、今まで同様の小さい制約された枠の中の仕様にしたがって、宣揚するだけではないのでしょうか。

我々むすび会は、四十余名の小人数の団体であり、有形無形の制約が多いのも事実ですが、

それにとらわれずに、まず行動実践してみるのも大切なことだと思います。

神社界の重鎮の方とは、六十才の開きがある会員も少なくはありませんし、基本的なことでは考えが同じでも、世代の違いからくる意見の相違はあつて当然です。まして無い方が不思議です。いろいろな議論をしてこそ発展があると思います。

何事に対しても、「よく聞き」「よく見て」そして意見を「はっきり言う」ことが大切だと思いますので、せめてむすび会の仲間内ではどしどし意見を出し合つて、仲間作りをし、そして皆なで前進をしたいものです。

平成十一年四月には、青年神職の全国組織である「神道青年全国協議会」の創立五十周年記

念式典が開催され、数々の記念事業が行なわれますし、それが終ると、すぐにむすび会創立四十周年事業が計画されると思います。その時の為にも、今からむすび会の財政的見直しも考えなければいけないと思います。

会費と神社庁からの助成金では、なかなか思いきった事業を起すことは難しいですし、会員の減少によつて予算が縮小されないように、会員の智慧を出しあつて方策を考えないといけない時にあると思います。

一年はあつと言う間に過ぎ去つてしまします。会員一人一人が積極的に事業に取り組み、将来の為に仲間作りをしようではありませんか。

第三回

神青協一都七県協議会総会

— 本県当番にて開催 —



去る平成九年六月二日～三日の両日に渡り、第三回神青協一都七県協議会総会が鬼怒川ホテルニュー岡部に於いて開催されました。今回は、我栃木県が当番県にあたり、当むすび会と致しまして、実行委員会を中心に幾度となく念入りの会議を開き、開催に向けて着々と準備を進めてまいり、万端整った中盛

会裡に総会を開催することが出来ました。

総会は阿部議長の下により

進められ、先ず上野副会長の「開会の辞」に始まり、神宮遥拝・国歌斉唱・敬神生活の綱領唱和と続き、当栃木県青年神職むすび会の加藤会長は挨拶の中で、「本総会がここ鬼怒川の地で開催されます事は当番県として光栄であり無上の喜びであります。我栃木県青年神職むすび会々員は会員数五〇名にも未たない大変神界では規模の小さな単位会でありますが神社庁のご指導のもと、むすび会先輩諸兄の薫陶をゆずり受け熱意と気概だけは負けないと自負しております」と力強く述べられました。

次に神青協関東地区理事小野和伸氏より第三回を迎える本総会の経緯と当むすび会への労いの挨拶を賜りました。

続いて小林役員より来賓各位の紹介並びに祝電披露が行われました。

次に、栃木県神社庁長、栃木県青年むすび会初代会長横瀬勝壽様又、神社本庁監事、栃木県神社総代連合会々長の塚本美代次様がそれぞれ神青協に対する大いなる期待と励ましのご挨拶を述べられました。

更に神青協会長に就任せられた篠直嗣氏より、本総会の為遠方より出席された役員又会員・来賓の皆様への感謝の言葉と今後の抱負についてご挨拶を賜りました。

さて総会は協議事項へ移り、議事進行は神青協一都七県関東地区議長の堀江久教氏の進行により進められ、先ず「平成九年度の活動報告と平成十年度活動方針」を(1)埼玉(2)神奈川(3)千葉(4)茨城(5)東京(6)山梨(7)群馬(8)栃木の順に行われ、各県の代表者により発表された。尚、当県は江部事務局長より発表がなされた。

続いて神青協一都七県協議会総会決議提案が述べられた。
一、美しい日本の文化と伝統

を未来に正しく伝える為、時局問題に積極的に取込み社会の正常化に努める
一、我々青年神職は自ら襟を正しつつ、道義国家の再興を目指す

一、関東地区主管、神奈川県担当の平成九年度開催中央研修会に一都七県相互協力のもと全力で取込む

以上の総会決議提案を東京神道青年会会長斎藤明比古氏が力強く宣言し、小野理事は質疑応答でその必要性を強調された。その後本決議提案は出席者満場一致の拍手により採択され協議事項は留り無く終了しました。

最後は次年度開催県である埼玉県神青会会長篠田宣久氏からの挨拶、当むすび会稲相談役の発声による「万歳三唱」と続き、当むすび会星野副会長の「閉会の辞」により第一部総会は幕を閉じた。

第二部「記念講演」は本県古峯神社石原敬士官司様を講師としてお招きし「奉仕を通じての勉強」と題してご講演いただき大変実の有るお話を拝聴出来ました。

講演「奉仕を通じての勉強」

講師 栃木県神社庁理事
古峯神社宮司 石原敬士

本日、栃木県で盛大に行われた神青協の総会に際し、「奉仕を通じての勉強」という話をもってお祝いとさせていただきます。

私は奉仕、ボランティアの際に「してあげる」という優越の意識がないか考えます。優越がある限り対等なコミュニケーションは生まれてこないからです。

ある自治体で中学生を主体としボランティアが組織されました。主催者から「普段と変わらないようにおつき合いをして下さい。この会は各々が何かを発見する会です。お互いが心を開かないと何も発見できないかもしれません。どうぞ心を開くことから始めて下さい。」という発足の言葉が贈られました。数か月に渡る活動後に全体での発表会が持たれました。ある班ではみんなで作詞作曲をして歌を

作り、作ったときの苦労話をみんな語り、つらい中でも生きていく事の素晴らしさを唱ったその歌を全員で歌ったとのことです。ある班では聴覚障害者が3人いた中、読唇術の勉強を進めながら貼り絵を作りました。野球ばかりしていた班もありました。健常者の子供と一緒に遊んだ経験が無いという車椅子の子供が野球をやるうと言いだしたので、座って打つけれども、バットにボールが当たらない。

途方に暮れているときに一人の子供が家からテニスのラケットを持ってきた。しかし、車椅子の子供がボールを打つても走れない。このハンデでは野球は無理なのかもしれないと思ったその時、一人が口にした「走れないならば這ってもらえばいいじゃないか。」という言葉。大人

の世界なら考えつきもしないし、口にすれば沈黙が支配したと思われこの提案に、誰も躊躇することなく、そうだよね、と賛同したのです。一つ一つルールを作りゲームを進めたとの報告に、こみ上げる感動に絶句したそうです。この大会の最後は「生きていくって素晴らしい」のリフレインで終わりました。参加者して感じたことは、障害者も私たちと同じ、生きることに懸命になっている仲間だ。手伝いでなくみんなで足りない所を補いあい、支えあって生きていくということが分かりました。」

という文章に、主催者は子供は短期間の内にここまで変化、成長するものなのかと驚き感じています。子供の頃の体験は未来に大きく影響を与えるシーンになり得

ます。その体験学習の一つがボランティア活動であります。ボランティアのベテランの方も教えられる事は多いとの事です。障害者の行動はどうしても健常者より遅く、立ち止まり道草を食う。

先を急がせようとしたその時、気付かされました。立ち止まっても生きていけることを・・・毎日毎日を走って走って生きてきた。立ち止まればみんなに先に行かれてしまう。そんな強迫観念のなか暮らしてきました。しかし、立ち止まって見れば様々なことが見えてくる。聞こえてくる。日々の難題に対しても、何とか必死に解決しようと日夜毎、思い悩んだ時、ふと立ち止まって一息入れれば、光が射すようにその解決策のヒントが見えてきます。知的障害者の子供達からちゃっかり頂いてしまった、立ち止まることの大切さ、楽しさ。この一時だけでも感動を得られるような毎日が続いて、そうだと、それがボランティアなのだ”と大声で叫びたい程の喜びをおぼえたと言白されておりました。自己犠牲ではなく、

第13回 神青協一都七県協議会総会



自己開発、自己形成、自己実現への道がボランティア活動です。それは他人のためではなく、自分のためにやる体験学習であり、ボランティアはまさに生涯体験学習なのであります。そんな体験の中で確実に自身が生まれ、何が社会に役立つことで、何故人々に喜ばれることかの判断基準が育まれ、想像力も豊かになり、トラブルに対する原因究明や判断方法なども身につけていくものなのです。

話は変わりますが二十一世紀はアジアの時代であると感じます。アジアには豊富な水と最低

限の食料があります。

豊富な水資源に恵まれたアジアの国々は水不足に悩まないだけではありません。水がある限り人間は安らかな心でいることが出来ます。アジアで生まれた民族音楽で耳にする音と音との間の微妙な音の変化が示すのは、その人の思考の変遷を示す瞬間微妙な感情の動く愛しい表現、言葉にできない思いの訴え、そして人間の慎重さを示すためらいであり、たゆたいでもあるのです。紙に書き取れない微妙な瞬間に人間としての重要な輝きを示す術をアジア人は誰もが知っていました。荒々しさとは無縁な表現の優しさ、慈悲の心が潜在的にあるのです。

また、世界にはその夜寝る前に口に入れるものがない人が沢山居ります。そういう貧困と比べるとアジアがそれほど貧しくないのは東北部を除いてバナナが採れるからであります。食べられる前に加熱のいらぬバナナが採れる所には、本当の飢餓はないと思います。バナナが採れない日本では緊張して農業に励み、飢餓に備えなければなりません。

それが、日本人を発展に導いているのかもしれないが、飢えと水不足に悩まなくてすむ土地の幸運をここに居られる方々は実感していかないように私は思います。

そんな恵まれた中、経済的発展も成しえたアジアには今まで無かった使命が生まれてくると思います。それは、自分だけが生きれば良いという素朴な利己主義から脱し、何の関係もない、感謝の念さえ持たない人でさえも、彼らが食糧不足であれば救っていかねばならないということとです。

今後、更にアジアが発展するかどうか、二つの鍵があります。一つは、我々自身が徳の力を持つかどうかです。徳は精神的なもので、実際の力などないと思う人も居ます。しかし、国民全体が公正な契約を守り、互いの幸福を考えられるかどうか、その国に繁栄をもたらすか否かに実際に関わってくると私は思っております。ギリシア人はアレテーという言葉に、卓越、勇らしさ、勇気、徳、力などの意味を持たせていました。徳と力

は同意語でした。私たちは今こそギリシア人達の知恵に、立ち戻るべきでありましょう。

第二は我々がどれだけ勤勉であるかです。日本は資源において貧しい国です。しかし、私は日本人の勤勉さが今の豊かな生活を築き上げたのであり、当然の結果であつたと思います。働かず人間が手に入れられるモノなどありません。人間は休む時には楽しく休む。しかし、基本的には生きる限り勤勉に働くことを基本にすべきです。アジアの人達はもう既にこのことを実行しているとは思いますが、世界中には働かないで貧しさを託っている人達が多いのです。

皆様方は奉仕を目標の一つとして集まっています。奉仕はギリシア語でデアコニアといい、「塵を通して」という意味です。奉仕者は、まず手を汚し人の嫌がる汚い仕事を承認しているはずで、我々の人間関係がもし、軽薄な楽しさにおいてだけではなく、人の嫌がるような面においてお互いに手を貸しあうようになれば、アジアの未来は必ず平和と繁栄が約束されます。

海外宗教視察研修会

大田原神社祢宜

宇賀神 直人

於 タイ

去る六月十六日より二十日の四泊五日の日程にて、むすび会会員五名、さらに上野・稲両相談役にも御同行頂き、タイはバンコクを中心に宗教視察をしてまいりました。

早朝、栃木県内を出発し、成田からタイへの七時間の長旅。加えて灼熱の南国の暑さ、何とも例えようのない匂い。疲れた身体に鞭を打ち、足早にバスに乗り込みいざバンコク市街へと



思いきや、大渋滞に巻き込まれ疲労困憊。聞くところによると、バンコクは、日本のように、電車などの交通網が発達しておらず、この様な大渋滞がおこるのだという。異常に多いタクシィやバイクなどの車社会が急速に発達し、それに伴う道路の整備がおいつかない状態なのである。タイには、きらびやかで美しい寺院が多い。国民のほとんどが仏教徒だといわれており、国の宗教も勿論仏教である。従って、タイの生活習慣も仏教に由来するものが多い。ところが、このタイの仏教というものは、日本の仏教とはかなり勝手が違う様である。日本でいう仏教は大乗仏教というもので、これに対しタイの仏教は小乗仏教といわれている。

社頭授与品専門奉製所

(主要奉製品意匠権所有に付、侵害厳禁)

常陸神宝(株)

〒310-006 水戸市根本町1丁目53-4
 ☎(水戸) 029 (227) 0511 (代)
 FAX(水戸) 029 (227) 0512

宮内庁・神宮司庁・神社本庁 御用達

株式会社



本社 京都市下京区油小路通六条上る 1F(〒600-8503)
 電話(075)341-3341(代) FAX(075)341-7902
 東京店 東京都新宿区三栄町11-6 1F(〒160-0088)
 電話(03)3357-4800(代) FAX(03)3357-4805
 福岡店 福岡市博多区東公園2-31(吉塚駅前) 1F(〒812-0045)
 電話(092)651-9456(代) FAX(092)631-0835

タイの僧侶は、早朝、山吹色の衣をまとい、大きな鉢をかかえて街中を歩いている。(所謂托鉢というもの)

寺院や民家の門前では、人々が僧侶達の来るのを待っていて、鉢の中にお布施をするのである。その時、感謝の意を表して合掌するのは、施しをする庶民の方であり、施しをされる僧侶ではないという。これは、功德を積ませていただいたという意味で、施しをした方が合掌をするのだという。

また、タイの仏教は女性に対してとくに厳しく、僧侶が女性に触れることを禁じており、女性が僧侶に触れることも当然ながら許されない。したがって、タイにおいては、僧侶が修業する過程において、女性に触れないように、いろいろな配慮がなされている。

タイは、仏教国であると共に王国としても有名な国であり、王室は国民からかなり尊敬の念を受けている。

バンコク市内には、いくつもの宮殿があり、実際に目前にそびえたつ西洋様式とタイ様式が

組み合わさった宮殿を見ると、不思議なくらい見る者をひきつけていく。

また、タイの街中至る所に、国王や僧侶の写真が飾られている。ホテル・レストランは勿論のこと、小さな店やタクシーの中にまで飾られている。改めてタイでは、国民一人一人が国王や僧侶に対し、深い敬慕・信望の厚さを感じるところである。

五日間という短い期間ではあったが、少しはタイの歴史や風習をかいま見ることができたような気がする。

また、何より印象的だったのは、タイの人達が仏教という教えを守る従順な心を持ち、そして暖みのある屈託のない笑顔である。

これからのタイは、急速に近代化が進むことだろう。近代化が進むにあたって街も変わっていくが、人の心も変わってしまった様な気がする。仏教を信じるという心だけは、いつまでも変わらずにいてほしい。

数年後、もう一度、タイへ訪れてみようと思う。

△行 程▽

6月16日	午前	東京出発
17日	午後	バンコク着
18日	終日	動物園 パタヤ観光
19日	終日	アユタヤ遺跡
20日	午前	バンコク出発



御守・御札奉製

東洋工芸

〒321-0912

宇都宮市石井町2551-6

TEL 028(662)0043

全国各神社御用達

神符・守札・木札・ビニール守・錦守・集印帳
交通安全守・御守袋・守護矢・ステッカー
奉書紙・書道半紙・画仙紙・色紙・他

創業100年 真心で奉仕する

今村紙業株式会社

代表取締役 今村 力男

〒409-3601 山梨県西八代郡市川大門町6, 237-11

電話 0552(72)0514(代)

FAX 0552(72)8818

植樹祭

日光二荒山神社権祢宜 香取正義

栃木県青年神職むすび会では恒例の植樹祭を平成九年九月十四日に実施いたしました。本年度は日光二荒山神社、古峯神社、賀蘇山神社にて行いました。

当日は小雨まじりの曇り空でしたが、神社庁にて加藤会長以下祭員が植樹奉告祭を斎行し、厳粛の中会員が参列致しました。



午前中は日光へと向かい、樹齢四、五百年の老杉が鬱蒼とした二荒山神社境内の中に、あおあおとした真榊を三本会員の手にて植樹致しました。拝殿にて会長以下植樹奉告の参拝をし、行幸啓の折に、両陛下が御休息された部屋にて、昼食をとらせていただきました。午後は鹿沼市の清流が流れる古峯神社に向かい、古峯園という、とても落ち着いた霧囲気の庭に植樹致しました。

賀蘇山神社では、横瀬宮司自ら修祓を奉仕され、加藤会長が玉串を捧げて会員一同参拝をさせていただき、御本殿脇の樹齢千八百年であった大杉の切株の周囲に植樹致しました。

今回は各社とも荘厳な杜に囲まれた自然の中のお社に植樹し、



心があらわれるような気持ちを持ち強く感じました。我々人間は、自然の中で生きていくことを改めて知らされたようです。

水と緑で満たされたこの青い地球が、今後も共存共栄の思いやりのある明るい世の中であり続けられればと、心から願います。

創業90余年の御信用

おみくじ機 製造販売
おみくじ

(有) 女子道社

〒745-0302 山口県都濃郡鹿野町
TEL 0834-68-2001
FAX 0834-68-2958

誠実と真心で奉仕する
御守・授与品・参拝記念奉製

御一報次第カタログ御送り致します。

グリーン産商株式会社

代表取締役 柚木 忠

〒547-0033 大阪市平野区平野西4丁目8番29号
電話 大阪 (06) 702-6009番代
FAX 大阪 (06) 797-5896番

初穂曳参加記

三宮神社宮司 小林 靖

先ず二十一年に一度の「お木曳」の伝統を伝へようと始りました。「初穂曳」に、貴重な奉仕の機会を与えて下さいました方々に感謝します。

むすび会より参加の小林・小堀両名は、池袋深夜発のバスにて神宮を目指し、十月十五日早朝伊勢駅前到着、私たちは通例に習い二見興玉神社に参拝した後神宮会館に向い、正午大講堂で結団式をすませ奉曳出発点に移動し、一日神領民として地元神領民と共に、勇ましい木遣り歌の合図で、第二十六回の初穂曳は開始しました。

神輿を担ぐ祭り慣れたる私にとって、縄を曳くことに初めは戸惑いがありました。が、「エンヤ・エンヤ」の掛け声と全園からの初穂を載せた曳車の心

に染み渡る豪快な音に、波うたせ縄曳く手に熱がこもり気分も高揚し、老若男女が一つ心に曳く姿に感動を覚えました。外宮の森が見えてくると祭りも一層盛り上がり、神域内にお木曳車は無事到着、全国からの参加者は各々丹精込めて育てたお国自慢の稲穂を五丈殿に奉納し外宮御垣内参拝たて奉曳の幕を閉じました。

その夜、外宮にて神嘗祭の由貴夕大御饗祭を奉拝し、見慣れぬ暗闇での神事に、参列した人々の緊張を肌にした時、ふと「何事のおわしますかは知らねども、かたじけなさに涙こぼる」と、口ずさんでいました。

古来より我が国は「祭政一致」の国といわれてきました。しかし現在の世相を見た時、改ため

て大御心をいただき、人々が共に縄を曳く時ではないかと思いつつ、翌日は内宮御垣内参拝し帰路に着いた次第です。



県内各神社様、工事拜命先 (順不同)

日光東照宮	矢板木幡神社
日光二荒山神社	小温泉神社
宇都宮二荒山神社	足利權八幡宮
真岡大前神社	佐野一社
大田原那須神社	下野母井神社
西那須野乃木神社	祖利八雲神社
氏家今宮神社	



株式会社 小西美術工藝社

〒321-1431 栃木県日光市山内2362 TEL 日光(0288)54-1198代
〒108-0074 東京都港区高輪1-5-22 TEL 東京(03)3447-1481代

営 業 品 目

木札・紙札・熊手・絵馬・守護矢
金襴錦守・縁起物入おみくじ・各種ステッカー

おまわりの奉製

株式会社 阿部

本社・工場 〒323-1104 栃木県下都賀郡藤岡町藤岡213-7
TEL(0282)62-1010(代表)
FAX(0282)62-2061

教化委員会・むすび会

合同の研修旅行に参加して

平出神社祢宜 江部 幸男

去る二月二十三、二十四日の両日栃木県神社庁教化委員会と栃木県青年神職むすび会合同による大阪における研修旅行に参加いたしました。

この研修旅行には、黒川委員長を団長に、総勢十一名の方々に参加し、青年神職むすび会より大前神社加藤直人会長、日光二荒山神社田原経三氏、平出神社江部幸男の三名が参加いたしました。

当日朝、新幹線で大阪に向かいました。到着後住吉大社に向かい、正式参拝の後由緒、鎮座する地域に関する事など、いろいろとお話をお伺い致しました。当日夜は、大阪の町を見学し見識を深め、諸先輩方と懇親を深

めることができました。

翌日は、朝より雨でしたが、午前中は、今宮戎神社に正式参拝いたしました。その後に道明寺天満宮にまいり正式参拝し、宝物館を見学したのち昼食をいただきながら、南坊城宮司より貴重なお話をお伺い致しました。大阪あるいは西日本方面における現状、昨年末より一段と深刻化する不況による影響、ダイオキシンに関する問題、これからのように活性させていくかなどのお話をお伺いし、あつという間の二時間でした。

この二日間で、三社を正式参拝するという非常にハードな研修旅行でしたが、その土地に行き、また、いろいろなお話をお

伺いし、とても考えさせられ、得る物の大きかった研修でした。



各種授与品、記念品奉製

金襴錦守、合成樹脂製守、紙札守
木札、金属製守、反射ステッカー

●その他各種授与品御希望に奉製致します。

株式会社 **三愛工芸**

〒311-4143 水戸市大塚町字谷津1761-16
電話 水戸 (029)251-2051(代)
FAX 水戸 (029)253-5844

授与品奉製

伊勢の



株式会社

神路社

〒516-8611

伊勢市岩渕二丁目5番29号(私書函26号)
TEL 0596-24-5858(代表)
FAX 0596-24-5110

神青協中央研修会

●テーマ 人生儀礼と家庭祭祀

●日時 三月五日・六日

●会場 パンパシフィックホテル横浜

去る三月五・六日の両日、平成九年度中央研修会が行なわれ、今回は「人生儀礼と家庭祭祀」をテーマに、神青協関東地区の主管、神奈川県神道青年会の担当で、パンパシフィックホテル横浜を会場に開られ、我がむすび会からも、加藤会長以下十一名が出席しました。

開講式では、神青協篠会長より「伝統的な人生儀礼を我々の代で途絶えさせてはならない。発足五十周年を機に先人の精神を受け継いでいきたい。」と挨拶がありました。

講演では、三隅治雄実践女子大学教授から「人生儀礼と家庭祭祀について」話を聞き、ビデオにより、人生儀礼・年中行事がもたらしている各地の民族

芸能を紹介されました。また世相に対しては、「折々の行事には親から子に今後の生き方を教える躰の本質がある。これは失われている。」と躰の必要性を訴へられました。

続いての「小笠原流の元服式について」では、会場内に齋場を設け「元服式」を齋行し、小笠原流宗家・小笠原清忠氏が各儀式や作法について、解説をされ、武家社会の人生儀礼を通して、家庭祭祀における伝統護持の重要性を学ぶことができました。

翌日は、石井研士國學院大學助教授が、「異文化の通過儀礼を通して」と題して神道の現状を講演され、パプア・ニューギニアの「血の成人式」の映像を

参考に解説され、そのうえで現代日本の行政主導型の成人式を例に「異文化の通過儀礼では、成人式を経なければ結婚できないが、日本においては、法律上は成人以前に結婚できる」と、儀礼と實際生活の関係などを述べたあと晩婚化によって実家との関係を断ち切れない我が国の現状を話されました。

今回の研修において、家庭祭祀の振興や、人生儀礼を含んだ民族芸能史、伝統的な人生儀礼やその現状と今日的な問題について勉強することができました。



絵馬・御札・神社授与品専門店



株式会社 晃栄商会

代表取締役 小杉高士

〒321-1421 栃木県日光市所野1388番地
電話0288(53)4186 FAX0288(53)4488



神社本庁 御用達
各神社

- 交通安全御守護
- 御参拝記念品
- 開運招福鈴
- 御社頭授与品

立案調製致します。

◆技術と信用◆

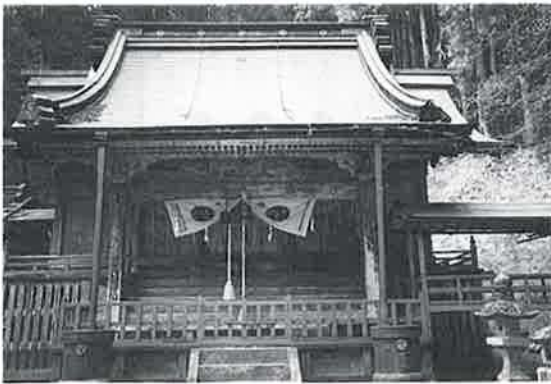
鈴木徽章工芸株式会社

〒113-0032 東京都文京区弥生2-12-1
TEL. 03-3814-1811 FAX03-3818-8332

会
員
神
社
紹
介

加蘇山神社

祢宜 荒井 和宏



加蘇山神社は鹿沼市上久我石裂山に鎮座あり、神護景雲元年(七六七)に勝道上人が開山し

たといわれている由緒ある古社で磐裂命、根裂命、武甕槌男命の三柱の神を祀り、五穀守護、武勇の神として知られている。陽成天皇御代元慶二年(八七八)九月十六日下野国加蘇山神に従五位下の位階を賜ると三代実録に記載してあるので、既にそれ以前より此所に鎮座せられていたことがわかる。往古は、近郷の人々はすべて氏子であつて社田三百町歩を以て神饌供物の料となし五人の神官により常に奉仕されていたと伝う。降つて永承年間(一〇四六〜一〇五三)に至り、源頼義父子奥州征討の際当社に参籠して速やかに賊徒の平定を祈願して

戦に臨んだところ果して頼義大勝を得、大に神威の崇厳なるに感銘、帰途持する所の鎧及び大刀を納めて武運長久を祈りたりとう。

是れにより兵馬の神として崇め遠近より登拝するものも多くなる。其後天文年間(一五三二〜一五五五)当国皆川城内の城主皆川山城守広照も大いにこれを尊信して、社領及び神馬大刀等を納め、又社殿の修飾に努めたり。承祿年間に至り久我式部大輔常真当村に一城を築きて猛威を振り遂には社頭をも掠奪せししかば、境内は衰微の一途をたどることになった。

当地方は往古より此時迄が加蘇野郷と称してきたが久我氏の領有になり久我村と改めたという。又村内に大鳥居及山禪の社ありて祭礼場並に社号の額面を掛け置きし形跡今猶存せり、天正年間に至り故ありて久我氏滅亡するや、社領又旧に復して承応年間(一六五二〜一六五五)一品公遵親王宮日光へ御入山あつてより当社を守護せられ、大に社殿を修飾して、世襲の神官を置き毎年春秋二回特に吏を派して

宮内庁・栃木県神社庁御用達
神祭具・御装束一式・結婚式場調度舗設

高田善次装束店

〒101-0041 東京都千代田区神田須田町1-17
加藤ビル2階
電話・FAX 03 (3251) 1869

カザリン
社寺専門店(御用達・鋳師)
屋根銅板葺 飾金具工事

カザリカナグ 有限会社 鈴木鋳金具工芸社

〒321-1412 栃木県日光市東和町57-1
TEL 0288 (53) 1121
FAX 0288 (54) 3263

境内を視察させると云うことになった。
 明治十年六月に至り近郷二十ヶ村の郷社に列せられ、大正四年三月六日大浦内務大臣によって県社に昇格せらる。当社の境内は頗る広域にして境内坪数六

十四万四千七百五十四坪周囲三里に及び奥社の鎮座せる神域は風光絶景にして奇岩奇勝の多き他比なく金山老杉うつ蒼禽鳥の啼鳴こだまする。末社二十一社が安置されてあるその幽〇と清気は深山石裂山の名をよく物語

っている。
 境内には県の天然記念物に指定された千本桂あり、号して神代木という。
 昭和三十年三月、前日光自然公園の指定を受ける。

磐裂根裂神社

祢宜 刀川 治久

【鎮座地】

下都賀郡壬生町大字安塚坂下一七七二番地

【御祭神】

磐裂神
 根裂神

【由緒】

昔から、下野国都賀郡南犬飼安塚地内安塚川二丁程の高台に、磐裂根裂神社を祀ったものである。そばに塚が八つありこれは崇神天皇の皇子が父の勅令によって、東国の方面に行き、平定

した時に、当地に来て住家となした。その後、三領ある皇宮の祭神を三領に分けた。即ち愛宕神社・皇の宮神社・鹿島神社である。この時は、正親町天皇の時代で、今から四百年前のことである。元亀元年九月二十九日本殿を建設し、正一位の位をいただいて、明治七年九月二十九日に安塚神社に昇格し、社号を改めて、村社磐裂根裂神社に改定し、現在に至っている。当社には亀塚古墳（前方後円墳）が

あり、社は古墳の前方部に祀られている。またこれは、文化財に指定されている。（県史跡）



— 創業80年 —
 早く・安く・美しく
 カラーカタログ
 おまかせ下さい

総合印刷

- ブランニング
- DM・チラシ
- ポスター
- カタログ
- パンフレット
- ハガキ
- 名刺



株式会社 杉山印刷

〒321-4325 栃木県真岡市田町 2 2 2 3
 ☎0285-8 2-2 0 3 5 (代) FAX. 0285-8 3-2 3 4 5

京都奉製株式会社

京都営業所 京都市上京区智恵光院通中立売下ル山里町236-1
 〒602-8268 T E L (075) 432-5500
 F A X (075) 432-5600
 東京営業所 東京都文京区本郷3-41-9 ウオトミビル3F
 〒113-0033 T E L (03) 3818-1461
 広島営業所 広島市西区横川町1丁目7-7 バルミー横川103号
 〒733-0011 T E L (082) 232-6845
 F A X (082) 232-5720
 本社 京都市左京区静海市原町1291-25
 〒601-1123 T E L (075) 741-3221

インターネット事業に関して

神道情報処理特別委員会

委員長 石川安一

ここ一・二年のインターネットブームで、我等神社界でもホームページを掲載しているお宮が多く見られる様になりました。

それらのホームページを覗いて見ますと、手の凝んだホームページが多く、各社それぞれにPRしたい部分が強調されており、なかなか目を引かれるホームページが多い様です。その点、当むすび会のホームページはまだ勉強段階ですので、あまり派手ではありませんが、素人の手によるもの、お宮の仕事の合間に作業しているものと思えば許してもらえないのではないのでしょうか？

そういう訳で、当むすび会のホームページも、もっと充実させるべく会員神社の紹介、むす

び会の活動報告だけでなく、一般の方にも解りやすく、神社の一年間の行事についての説明を掲せたり、お宮の豆知識や、神社についての質問箱等を、掲せたいと思っておりますので、皆様方の多大なる御協力が必要です。何でも結構ですので、むすび会の会員に係わらず、皆様どうぞ資料をお寄せ下さい。

インターネットで何が出来るの？パソコンで何をやるの？と、堅くならず、まずはやってみる事です。こんな事をしたからパソコンが壊れた！何て事は、まずありませんので心配は御無用です。解らない時は当委員会でお手伝いしますので、何なりとお申し付け下さい。

の委員会の活動ではないと思いますので、気軽にお声を掛けて下さい。

まずは、むすび会のホームページからアクセスしてみましよう。

<http://www.jusnet.or.jp/home/k-watari/WELCOME.HTM>



全国で初めて!! 特殊洗浄の技術

—安価で新品に変わる御翠簾と神具—
(御翠簾、御三宝、八足案、外祭案等の洗浄)

有限会社 瀧澤


〒168-0065 東京都杉並区浜田山4-15-13
TEL 03-3317-2081(代)
FAX 03-3317-2055

尚、御新調も承っております。御気軽に御相談下さい。

創業130年

各種御神符・守札
その他授与品全般

湊御神符奉製所

 株式会社 湊

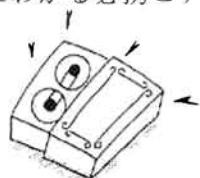
伊勢市神宮会館前 〒516-0025
電話 (0596)22-2442(代表)
FAX (0596)28-8445

栃木県青年神職むすび会事業のご案内

神棚のまつり方ビデオ

定価 2,000 円

知っているようで知らなかった神棚のまつり方を、やさしく解説した神社界待望のビデオ、家族全員で神棚をまつる意義、まつり方がアツというまにわかる必携ビデオ。
(約 20分)



企画製作
企画監修
指導協会
推 薦

栃木県青年神職むすび会
栃木県神社庁教化委員会
栃 木 県 社 社 庁
神道青年全国協議会

ご朱印帳

定価 1,000 円

栃木県内主要約100社の鎮座地、連絡先を地図とともに記載各神社参拝の折、ご活用下さい。



神社めぐり

定価 1,800 円

地域の神社の歴史と文化を身近に感じるこの一冊、県内神社めぐりの本です。



● お申込み先 ●

栃木県青年神職むすび会

〒320-0015 栃木県宇都宮市八幡台12-24

栃木県神社庁(担当 堀口)

TEL 028 (625) 2011

FAX 028 (624) 3217

平成九年度むすび会役員・幹事氏名

【役員】

会長	加藤 直人	大前神社	権祐宜
副会長	上野 武男	宇・二荒山神社	権祐宜
副会長	星野 芳典	乃木神社	権祐宜
事務局長	江部 幸男	平出神社	権祐宜
会計	小林 靖	三宮神社	宮 司
庶務	宇賀神直人	大田原神社	祐 宜
監事	堀口 邦夫	栃木県神社庁	主 事
監事	大野 房典	宇・二荒山神社	権祐宜
監事	菱沼 至広	鷲宮神社	祐 宜
議長	阿部 修一	古峯神社	権祐宜

むすび会各種委員会委員

【事業委員会】

委員長	小幡 正之
副委員長	荒井 和宏
委員	堀口 邦夫
	山杉 勝敏
	小島 教敬
	斎藤 正洋
	田原 経三
	植竹 俊光

【広報委員会】

委員長	伊原 弘之
副委員長	野崎 正之
委員	小堀 真洋
	大河原 肇
	町井 康祐
	小島 宣紀
	神山 拓之
	狐塚 泰久

【神道情報処理特別委員会】

委員長	石川 安一
委員	渡 健二
	小堀 真洋
	中村 晃治

【幹事】

宇河支部	小島 宣紀	檀原神社	祐 宜
宇・二荒山神社	荒井 和宏		権祐宜
芳賀支部	小幡 正之	鹿島神社	宮 司
塩谷支部	石川 安一	安住神社	権祐宜
北那須・南那須支部	人見 文治	温泉神社	祐 宜
上都賀支部	永田 弘幸	根裂神社	宮 司
日・二荒山神社	伊原 弘之		権祐宜
古峯神社	篠田 薫		権祐宜
下都賀支部	栗原 城治	八幡宮	宮 司
安佐・足利支部	長 和彦	八幡宮	宮 司

【教化研修委員会】

委員長	永田 弘幸
副委員長	篠田 薫
委員	人見 文治
	篠原 正宏
	佐藤 智則
	鷹箸 久志
	福田 財大
	大沢 治隆

【親睦渉外委員会】

委員長	山田 和之
副委員長	香取 正義
委員	中山 光明
	渡辺 幸雄
	宮本 利治
	田中 教文
	長 和彦
	清水 寛明
	栗原 城治
	金子 宗人

平成九年度栃木県青年神職むすび会事業報告

4月7日 第一回幹事会 於 栃木県護国神社

4月23日 神青協定例総会 於 神社本庁

4月24日 相談役会 於 しおの

4月28日 会員神社祭典奉仕 於 栃木県護国神社

5月6日 第二回幹事会 於 宇・二荒山神社

むすび会定例総会

5月21日 栃の実学園神棚祭 於 佐野市

5月23日 第三回幹事会 於 宇・二荒山神社

6月2～3日 神青協一都七県関東地区総会 於 鬼怒川ホテルニュー岡部

6月16～20日 海外宗教視察研修会 於 タイ

7月4日 各種合同委員会 於 宇・二荒山神社

神青協一都七県関東地区総会反省会

7月11日 第二回神青協一都七県協議会定例会議 於 神社本庁

8月3日 栃の実学園地域交流事業 於 佐野市

8月29日 映画「学校」上映会

第一回役員、幹事、正副委員長会

8月3～4日 神道青年全国協議会夏期セミナー 於 宇・二荒山神社

9月4日 第二回神青協一都七県協議会定例会議 於 國學院大学

9月16日 植樹 於 神社本庁

9月29日 第三回神青協一都七県協議会定例会議 於 上都賀郡

10月16～17日 神宮初穂曳き奉仕 於 神社本庁

10月23日 第二回役員、幹事、正副委員長会 於 伊勢神宮

11月9～10日 会員神社祭典奉仕 於 栃木県神社庁

11月3日 役員会 於 大前神社

12月3日 退会者、昇級者祝賀会並びに忘年会 於 鬼怒川観光ホテル東館

12月10日 第四回神青協一都七県協議会定例会議 於 神社本庁

1月11日 第五回神青協一都七県協議会定例会議 於 神社本庁

1月26日 第三回役員、幹事、正副委員長会 於 東京都神社庁

2月11日 建国記念パレード 於 宇・二荒山神社

2月20日 役員会 於 宇・二荒山神社

3月5～6日 中央研修会 於 神奈川県横浜市

3月23日 第四回幹事会 於 宇・二荒山神社

4月4日 他県神社視察並びに家族会 於 茨城方面

◆新入会員紹介◆



栗原城治

住 所：栃木県小山市間々田
二三七一
生年月日：S元・二〇・三五
奉務先：間々田八幡宮
趣味・特技：楽器演奏、作曲
座右の銘：日々精進
好きな女性のタイプ：聡明で芯の強い女性

先ずは自らの精進が先決。精神的にも、そして知識的にも、氏子の皆様の信頼に足る人物、そして宮司となれるよう、諸先輩方のご指導を仰ぎながら、これからの神職人生を誠実に歩んでいきたいと考えております。



刀川治久

住 所：栃木県下都賀郡壬生町大字北小林六九二―二
生年月日：S盟・三・八
奉務先：磐裂根裂神社
趣味・特技：釣り、ゴルフ、ハンドボール
座右の銘：今は今しかない
好きな女性のタイプ：明るくおらかな女性 妻です

古いならわしを大切にし、新しいものも取り入れていきたい。また氏子が神社を身近に感じられ、地域の人々が気軽に遊びに来れるような神社にし、共に力を合わせ神社を発展させていきたい。



金子宗人

住 所：鹿沼市磯町二七二
生年月日：S盟・一〇・三三
奉務先：宇都宮二荒山神社
趣味・特技：音楽絵画鑑賞、読書
座右の銘：為せば成る
好きな女性のタイプ：優しい人

昨年四月より宇都宮二荒山神社に御奉仕させていただき、恒礼祭典・渡御等の様々な行事又日々の社務と学ぶところの多い一年であった。今後も、今の自分が出る事、成すべき事を為し、信念を持ち神明奉仕に致してゆきたい。



町井康祐

住 所：栃木県日光市内二
三〇二―二
生年月日：S盟・三・三
奉務先：日光二荒山神社
趣味・特技：読書、音楽鑑賞、武術、合気道式段
座右の銘：立身中正
好きな女性のタイプ：かわいいひと

私、東京都は葛飾区、亀有よりやってまいりました。町井康祐でございます。様々な難行苦行の末に、日光二荒山神社に奉職することとなりました。立派な先輩方を御手本としてがんばります。

祝 結婚

氏 名：福田 財 大

奉務先：鹿沼市 今宮神社

挙式日時：H9・3・30

祭 場：日光東照宮

披露宴：東照宮見陽苑

新婦氏名：正 代 (まさよ)

本人のコメント：夫婦共に和合を持って「神職家」繁栄の為、邁進して参りたいと存じます。

奥さんより一言：神職家に嫁ぎ、早一年が過ぎ様としています。結婚当初は、色々な面での戸惑いもありましたが、時が過つに連れて、少しずつ理解出来る様になりました。これからも人生の伴侶となる夫を支え、助け合い、神職家繁栄の為に、より良い環境作りに務めたいと思います。

本人のコメント：明るく楽しく、山や海でも活躍しよう
奥さんより一言：なるべくケンカをしないようにしたいと思います。

祝 誕生

氏 名：加藤 直 人

第一子氏名：加藤 璃 子

(かとうりこ)

生年月日：H9・5・25

親からの希望：とにかく元気な健康で育ってほしい。

人にかかれるような娘になってほしい。

成人式を迎える時、親も高齢？になっているので、自立心旺盛に育ちなさい。

氏 名：香 取 正 義
第一子氏名：香 取 千 裕

(かとりちひろ)

生年月日：H9・7・28

親からの希望：健やかに伸々と
そしてお父さんに似て笑顔の

ステキな明るい子に育って欲しいです。(妻 由美)

氏 名：伊藤 史 展
第一子氏名：伊藤 照 優
(いとうてるまさ)

生年月日：H9・5・18

編集後記

はじめに今年も会報むすび第二十二号を関係各位皆様方の協力のもとに発行出来ましたことを厚く御礼を申し上げます。

又、広告協賛として各社の皆様には、早々に御協賛を賜り心より感謝致します。

平成九年度は、少年犯罪など暗い事件が世相を駆け巡った年でありましたが、このような時にこそ我々は青少年の教化育成につとめて行きたいと思う次第です。

また、今回の表紙の写真は、日光市中宮祠の大野恵一郎様に御協力を頂き、次代へうけついで行きたい自然として、半月峠から見た男体山と中禅寺湖を載せてみました。

尚、昨年度の会報の中で多数のまちがいがあったことを深くお詫び申し上げます。

全国神社御用達

神社用品全般調進所

有限会社 平石装束店

〒264-0022

千葉市若葉区桜木町519番地6

TEL 043-231-5774

FAX 043-231-3715

神輿・太鼓・神具

製作直売 (カタログ進呈)

1尺8寸、2尺、3尺、4尺、タンジリ、その他何でもご一報下さい。

大阪府神社庁御指定・徳島県神社庁御指定

有限会社 青山みこし店

本社・工場 徳島市春日1-2-19
TEL (0886) 32-1456・FAX (0886) 32-7424

至福島
至小山

旅行のご相談からお申込みまで、皆様のお役に立つ当店をご利用ください。

お申込みは <受託販売>
028(636)2945
 FAX 028(636)2885
JTBトラベランド
宇都宮東店

海外 ハネムーン
 家族旅行
 グループ旅行

—— 土日も営業 ——
 休業日：火曜日
 営業時間：10:00～19:00
 宇都宮市東宿郷6-8-18 〒321-0953
 ジョジョビル

信用と品質の

祈りをかたちに
ハセガワ

祈りをかたちに

神社授与品・記念品御奉製

株式会社 長谷川製作所 代表取締役 長谷川 和夫

本社 〒114-0004 東京都北区堀船3-20-13 TEL 03-3912-6161(代表) FAX 03-3912-3131
 草加営業所 〒340-0025 埼玉県草加市谷塚仲町466-1 TEL 0489-21-1221(代) FAX 0489-21-1515

お伊勢参りのお食事とおみやげは

伊勢神宮内宮前

勢乃國屋

TEL (0596) 23-5555
 FAX (0596) 23-1928

伊勢名物 **岩戸餅**

お食事・休憩・おみやげ…

伊勢神宮前 **岩戸屋**

http://www.mint.or.jp/iwatoya
 E-Mail:iwatoya@mint.or.jp
 伊勢市内宮前 ☎(0596)23-3188(代)
 FAX(0596)28-1322

—— 総合印刷 ——

NP 有限会社 中津印刷所

〒321-1406 栃木県日光市松原町320-1
 TEL (0288) 54-1529
 FAX (0288) 53-0850

各種鈴緒・合織注連縄製造
 野州麻・中国産麻販売

(有)モミジヤ

〒328-0042 栃木市沼和田町12-14
 TEL 0120-22-1312
 FAX 0282-22-1387